

夢は実現できる

アテネオリンピック棒高跳び日本代表

近藤 高代さん(17期生)

ずっとワクワクしてました

五輪出場が決まった瞬間の
お気持ちはどうでしたか?

決まった瞬間はとにかく良
かった、うれしかったです。やつ
と世界の舞台に立てる、世界
の舞台に立つことを目標とし
て今まで頑張ってきてたので、
まして今年はオリンピックで、
うれしさも倍でした。

試合当日はどんな気持ち
でしたか?

ずっとワクワクしてました。



▲とても気さくにインタビューに答えてくれた近藤さん(校長室にて)

に結構厳重なチェックを受け
ました。金属探知機みたいな
のが入る前にあります。荷物
検査もありました。スタジ
アムに入るお客様も一緒に荷
物検査などのチェックを受け
ていました。

アムに入るお客様も一緒に荷
物検査などのチェックを受け
ていました。

反発力で飛ぶ一瞬の魅力

棒高跳びの魅力っていうの
はどういう所ですか?

棒をぐつと曲げて、その反発

で飛ばされるのは他の陸上競
技では得られないものですし、

それが棒高跳び独特で魅力で
す。高く飛べるとほど強く

反発を得られるのが自分でも
わかるんで、それが快感と言う

か……魅力ですね。

飛んでいるときは何か色々
と考えているのですか?

結構もう一瞬だけですね。自
分のポイントだけを意識したら、

あとはそのまま。

ハンマー投げ全国制覇

陸上部 廣瀬 裕人(3の7)



▲表彰台で満面の笑顔

男子ハンマー投げで見事
全国優勝した廣瀬君。

1年の時は円盤投げが
メインで、ハンマー投げはそ
の年の夏、2種目目として
始めた。最初の頃は「この
競技を全然知らんかったし、
球は重たいし、練習し始め
たらグリップ(握る所)で指
と指がすべて水脹れがで
きて痛いし嫌やった」ハンマ
ーの球は約6kg(ボーリン
グの14ポンドと同じくらい。
それから少し経って、「1回
部活辞めようつて決めてた
時期があつた。その時色々
考えて、インハイは高校生
の世界での積み重ねができ
るし、ノルマ達成したら1ス

回の練習が、えぐくて辛い」
できたという。

予選の近畿大会では「も
う」と即答、「団体競技
と一味違う個人競技は1人
しかいないんだから、人生終
了するまで一生懸命やるよ」と
語る廣瀬君。次は国体
で臨む。これからも記録を
更新し続けて欲しい。

将来は、「五輪は無理で
更新し続けて欲しい。
(近藤さんは今年の世界陸
上に出場し、好成績を残
されました。)



▲表彰台で満面の笑顔

たのにもかかわらず、
然体でいられる所が好き」
と語る廣瀬君。次は国体
で優勝だつたと悔しそうだった。
に臨む。これからも記録を
更新し続けて欲しい。

将来自ら少し経つて、「1回
部活辞めようつて決めてた
時期があつた。その時色々
考えて、インハイは自分が自
己流で活動中です。」

今後は「五輪は無理で
更新し続けて欲しい。
(近藤さんは今年の世界陸
上に出場し、好成績を残
されました。)

今後は「五輪は無理で
更新し続けて欲しい。
(近藤さんは今年の世界陸
上に出場し、好成績を残
されました。)

このインタビュー記事は、「東大津高校新聞」2004年10月7日(第122号)より抜粋しました。